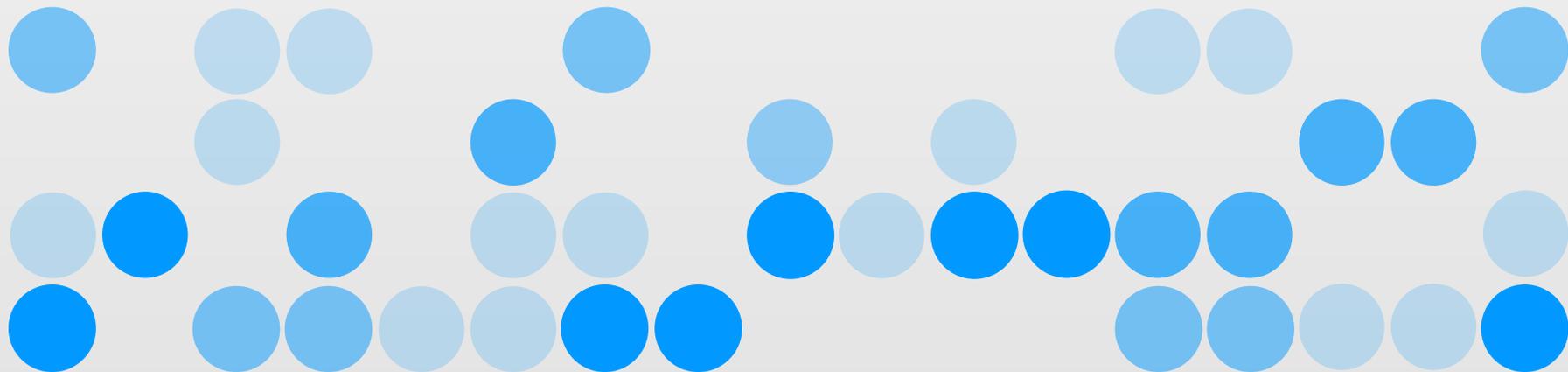


平成22年6月22日開催

第73期 定時株主総会



オムロン株式会社

事業報告

経済情勢

100年に一度と言われた前期後半からの世界的な景気後退

引き続き
影響

厳しい経済情勢で推移

下期より、世界各国での景気対策効果が徐々に顕在化

新興国
が牽引

緩やかな回復基調で推移

国内経済

海外経済の回復による輸出

国内経済も、下期に明るさがみえてくる

海外経済

下期より景気回復

欧米

景気対策により回復傾向

中国

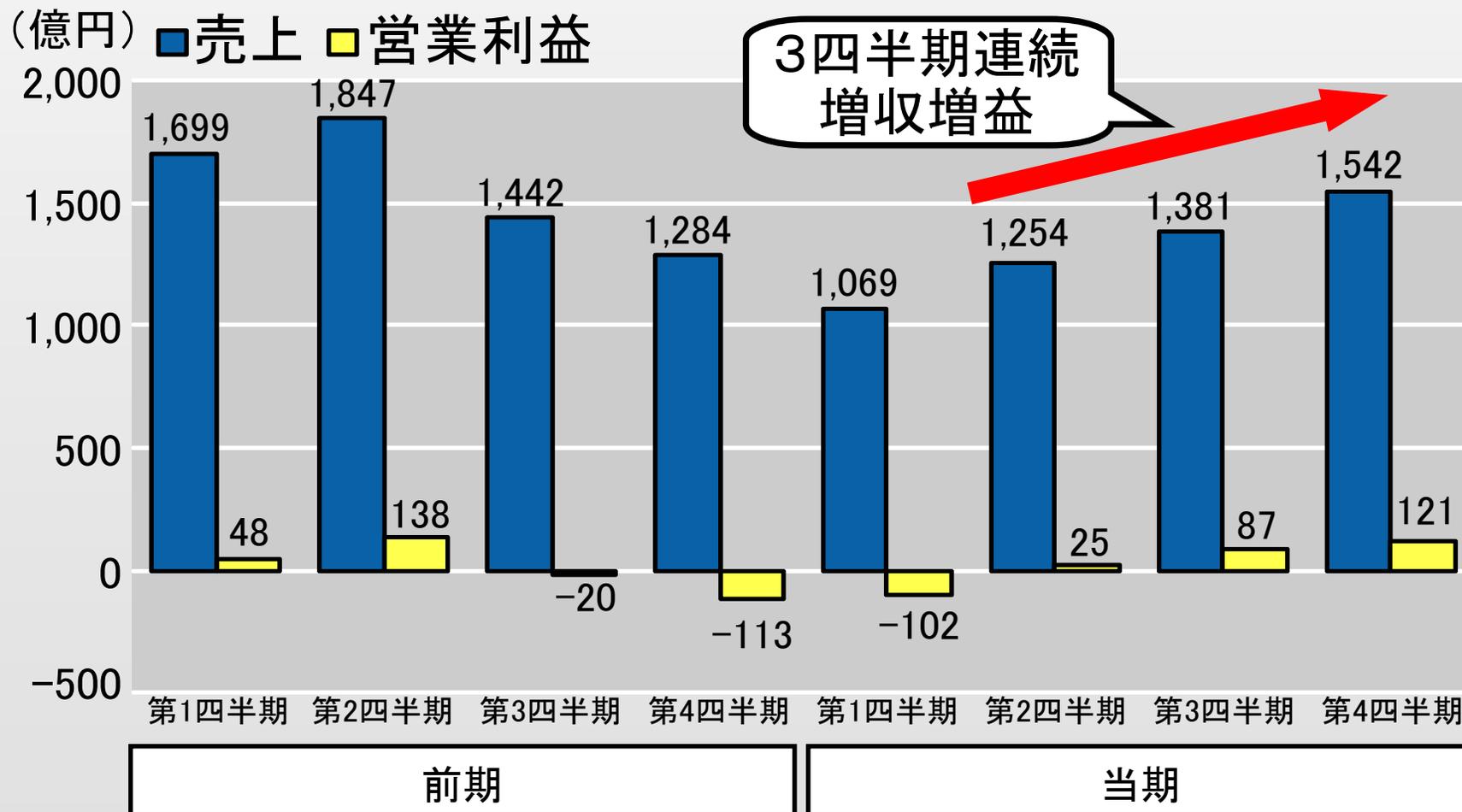
消費喚起策の影響により好調

アジア

堅調に推移

事業の経過およびその成果

全社/売上高・営業利益 四半期推移



事業の経過およびその成果

当期の全社業績

(億円)

	前期	当期	前期比
売上高	6,272	5,247	83.7%
営業利益	53	131	244.9%
税引前 当期純利益	△391	102	—
当期純利益	△292	35	—

緊急収益対策の結果

■ 徹底した収益対策を実施した結果

削減額合計 約630億円

項目		当期削減額
変動費(削減額)		約50億円
固定費	製造固定費	約580億円
	販管費	
	研究開発費	

削減

営業利益を131億円と大幅に回復

構造改革の状況

各事業の強化のために構造改革を実施

■ 工場自動化用制御機器事業 (IAB)

- ・ 顧客接点 (営業、開発、サポート) の強化

■ 家電・通信用電子部品事業 (EMC)

- ・ ものづくり力の強化、分散していた制御機器生産を集約
スイッチ事業分社決定 (2010年4月新会社設立)

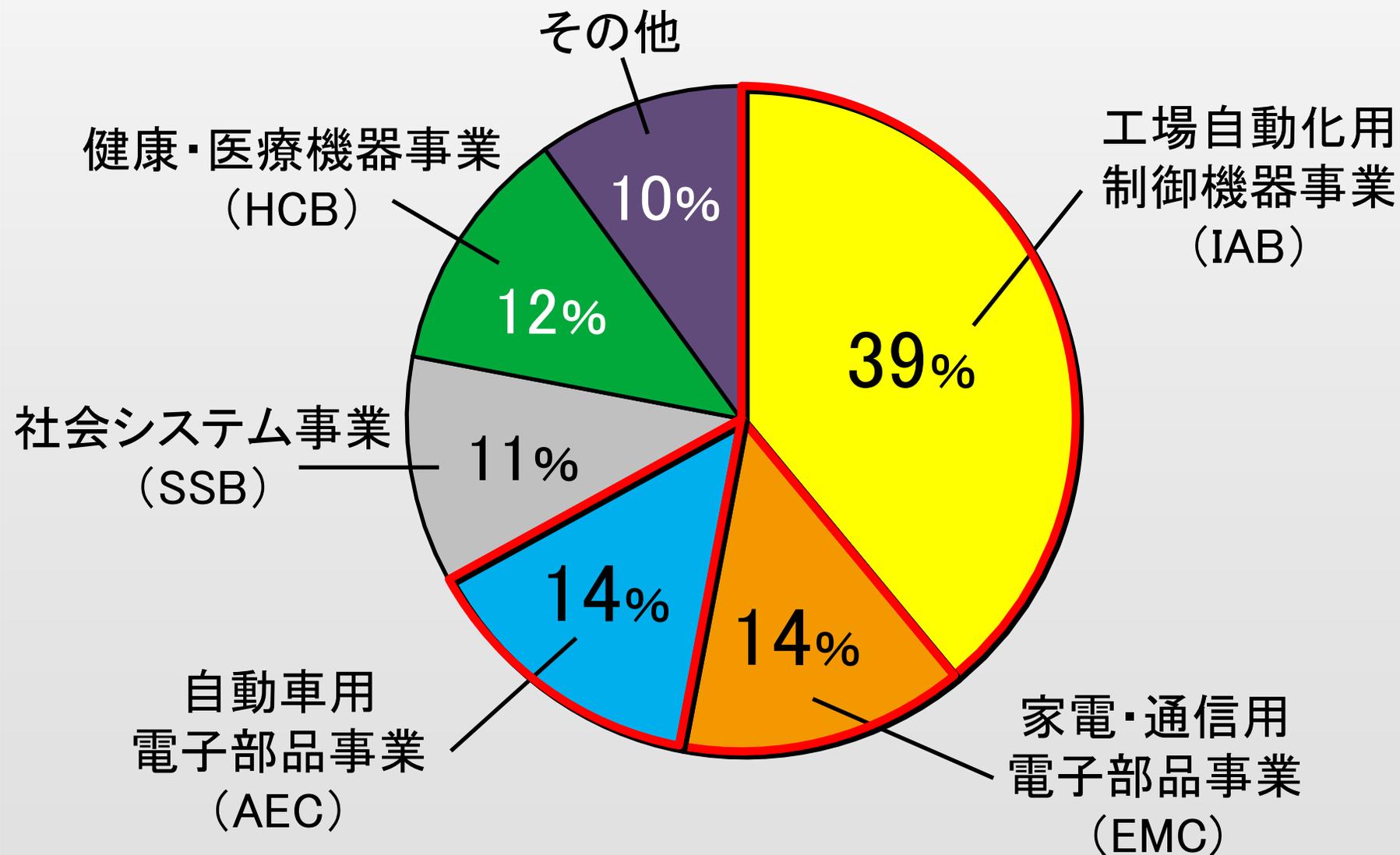
■ 自動車用電子部品事業 (AEC)

- ・ 業界に特化した自律経営のために分社決定
(2010年5月新会社設立)

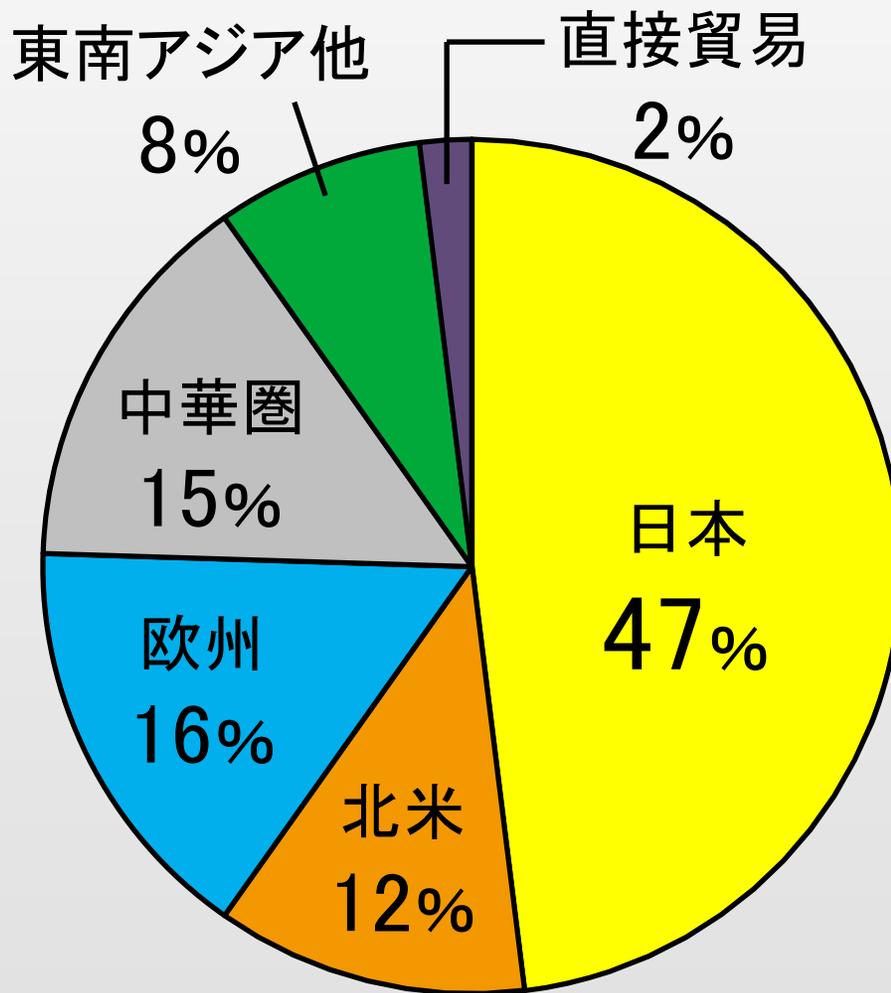
■ 本社直轄での育成強化

- ・ マイクロデバイス事業、バックライト事業

部門別売上高構成比

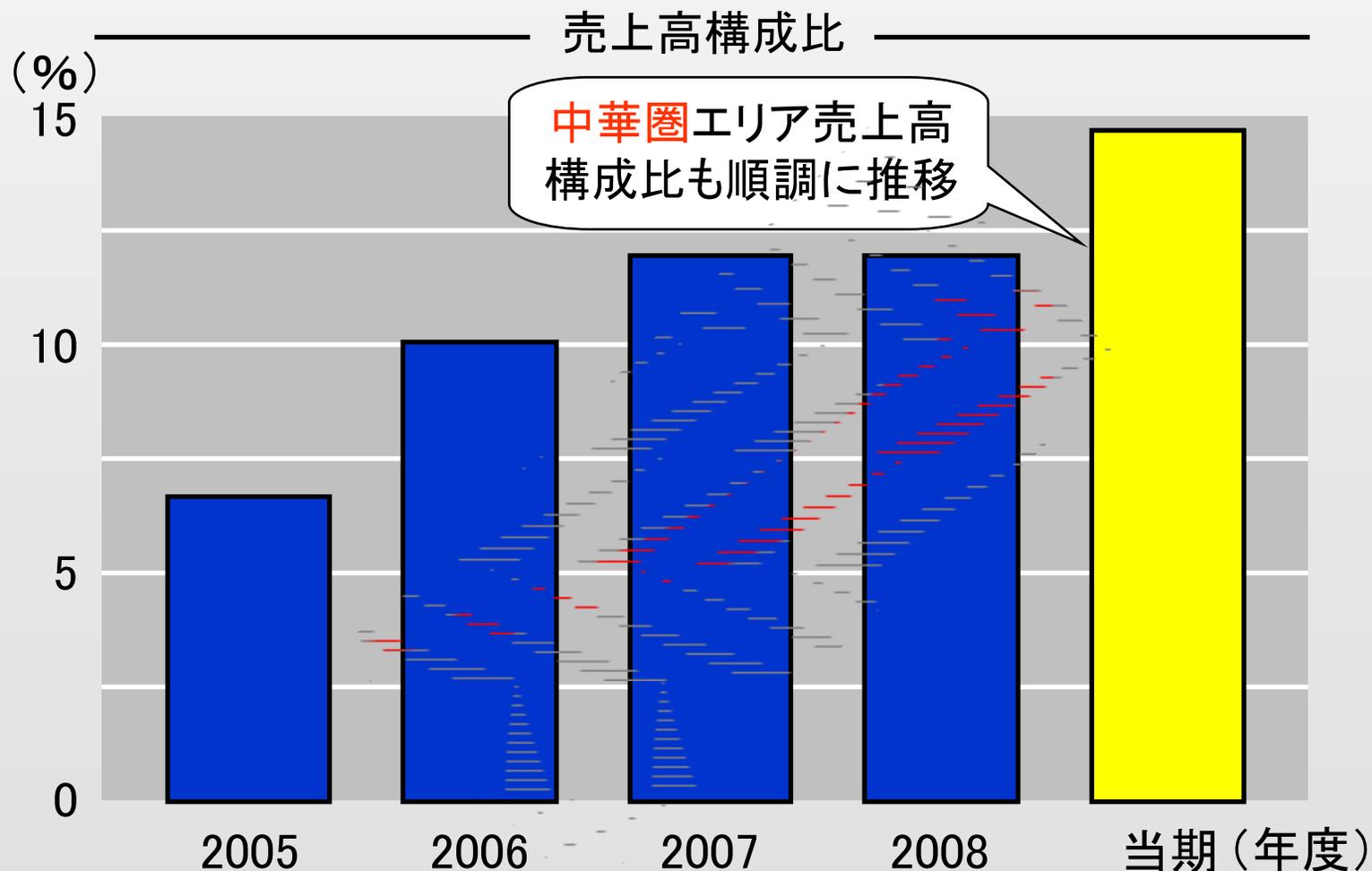


地域別セグメント情報



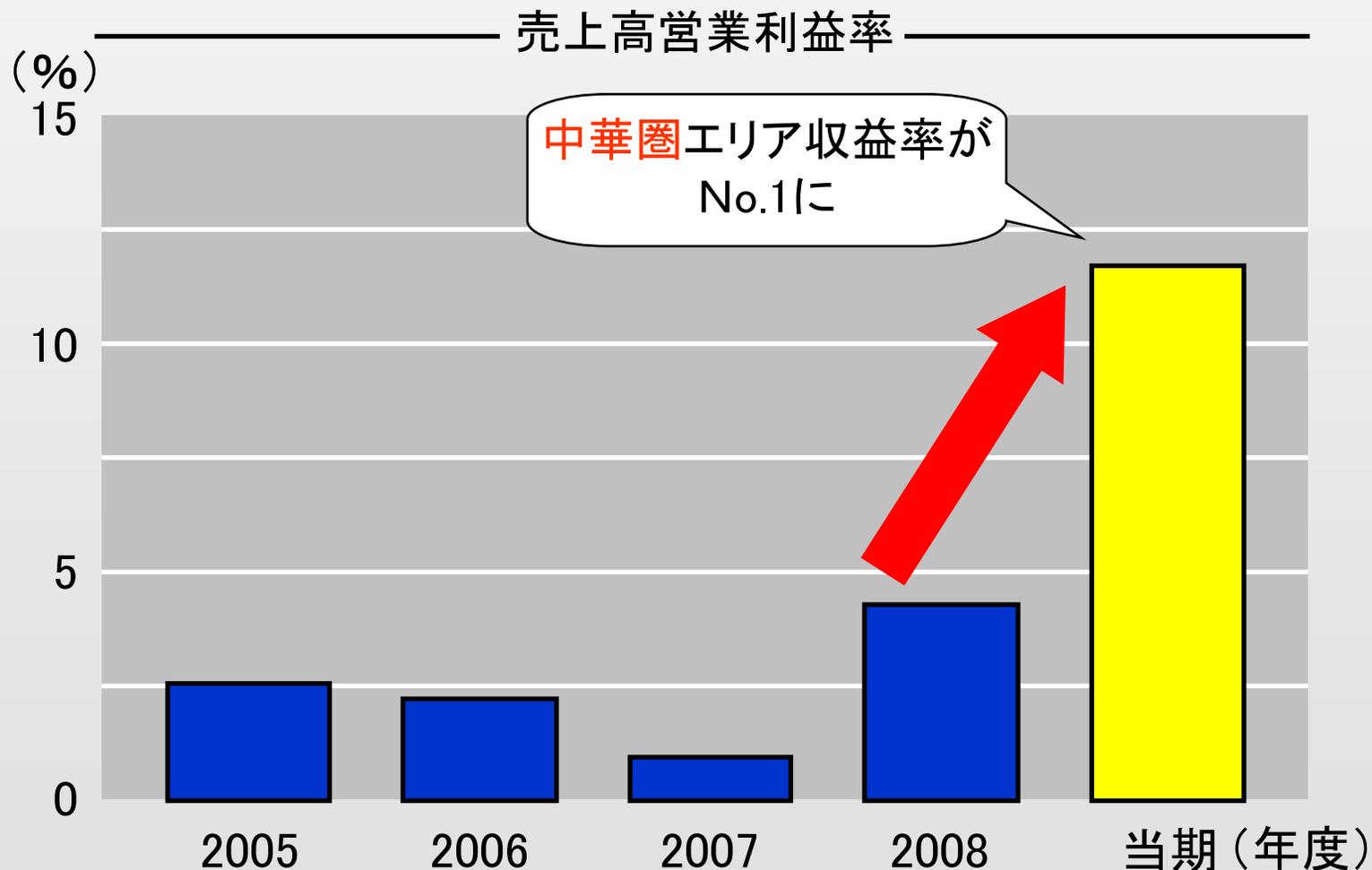
中華圏の売上高構成比の推移

■ 売上高構成比、中華圏エリアで向上



中華圏の売上高営業利益率の推移

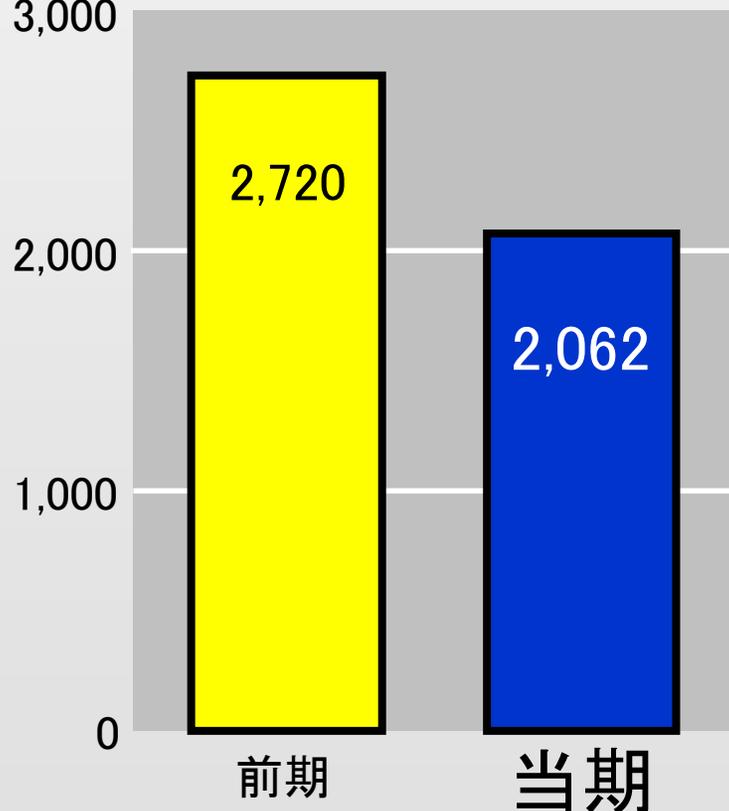
■ 地域別の収益率、中華圏エリアがNo.1に



工場自動化用制御機器事業 (IAB)

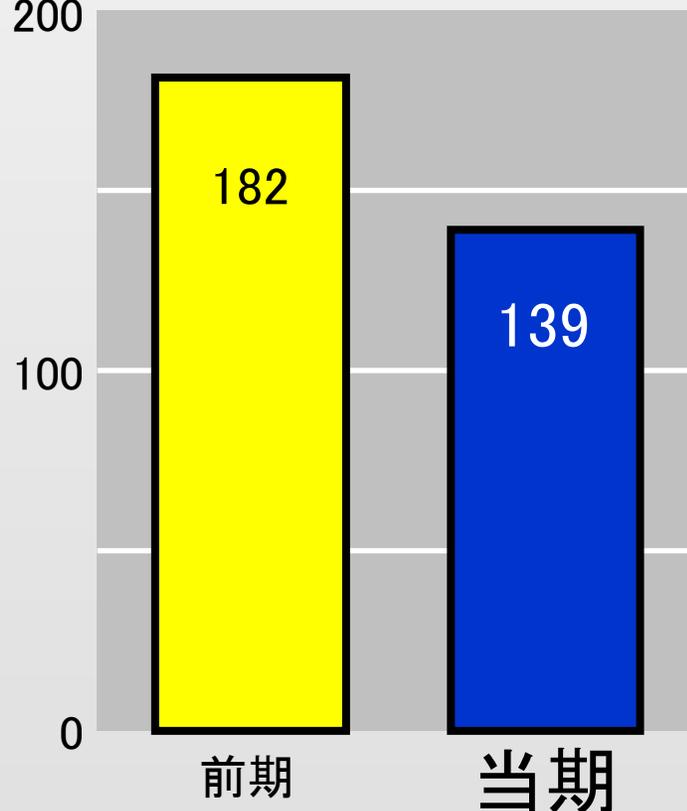
売上高

(億円)
3,000



営業利益

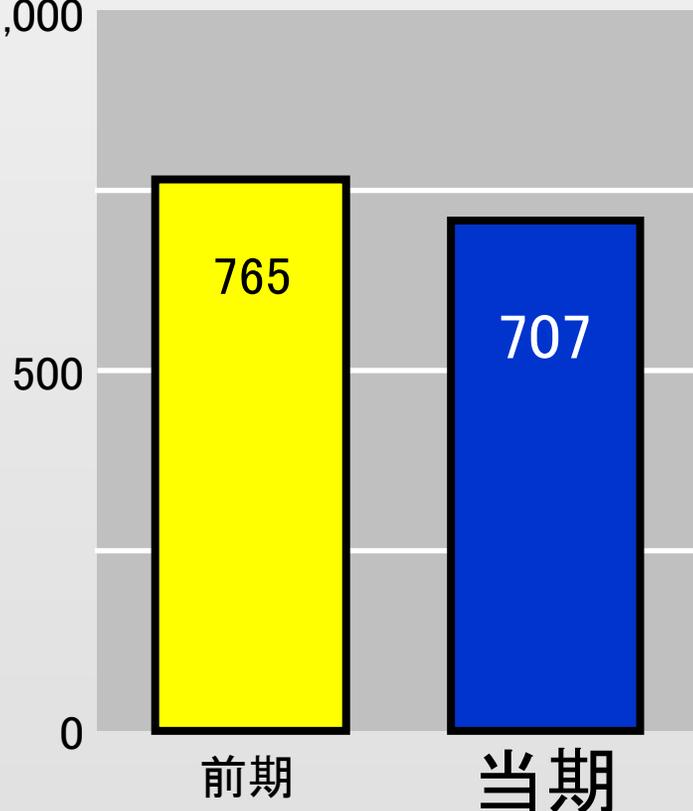
(億円)
200



家電・通信用電子部品事業 (EMC)

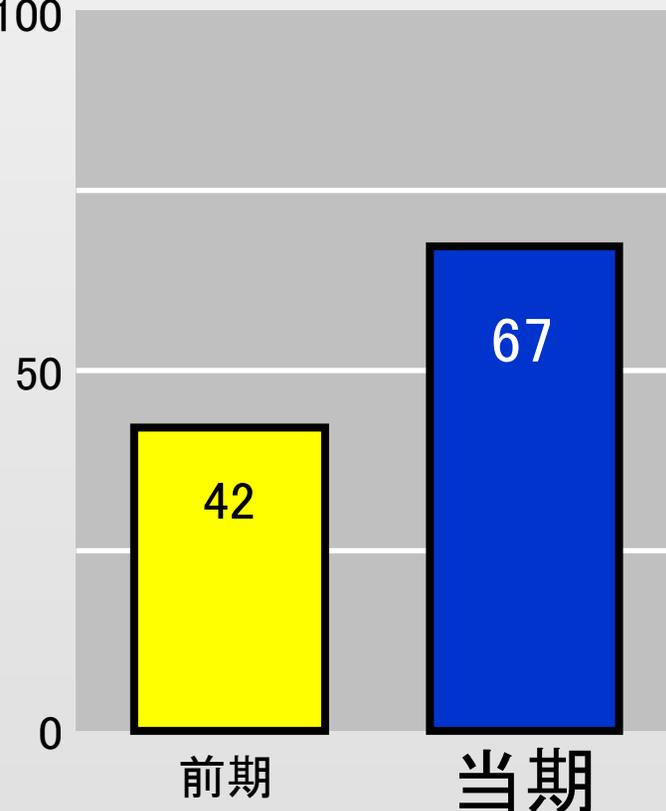
売上高

(億円)
1,000

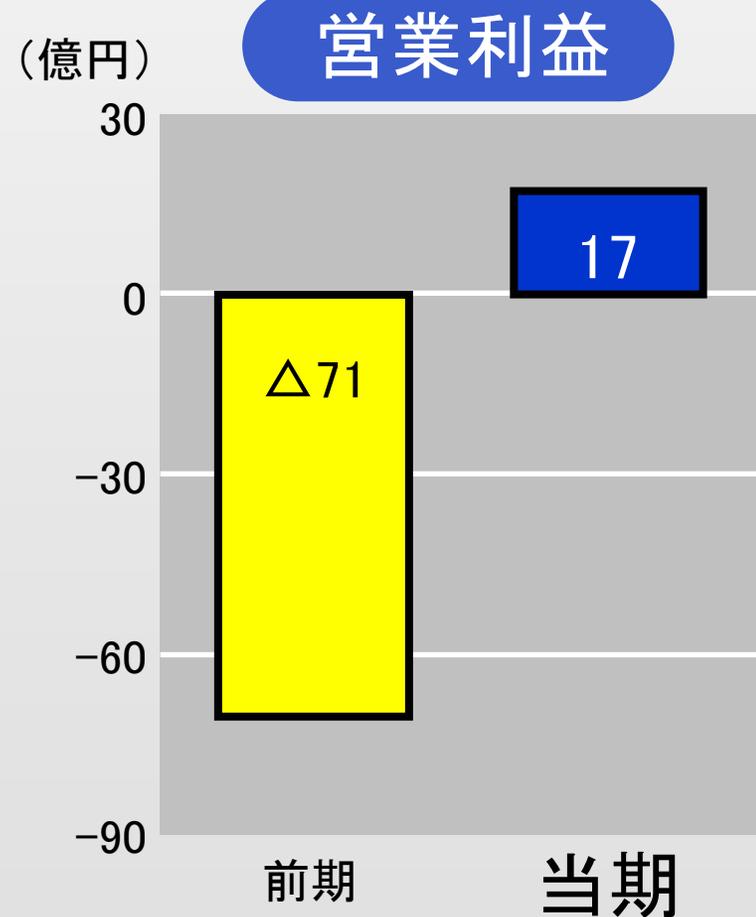
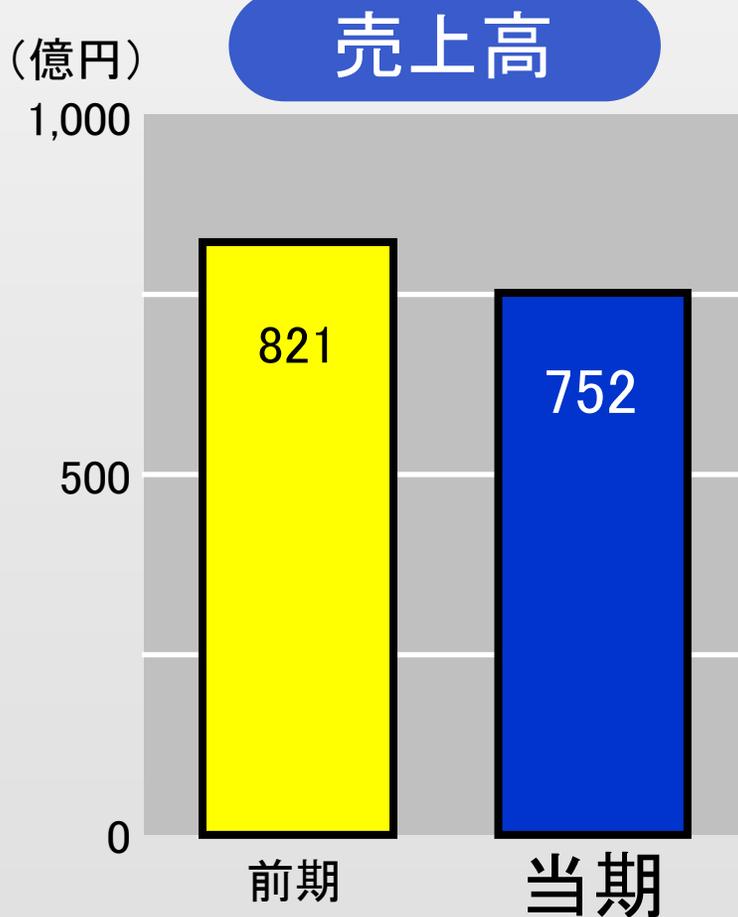


営業利益

(億円)
100



自動車用電子部品事業 (AEC)

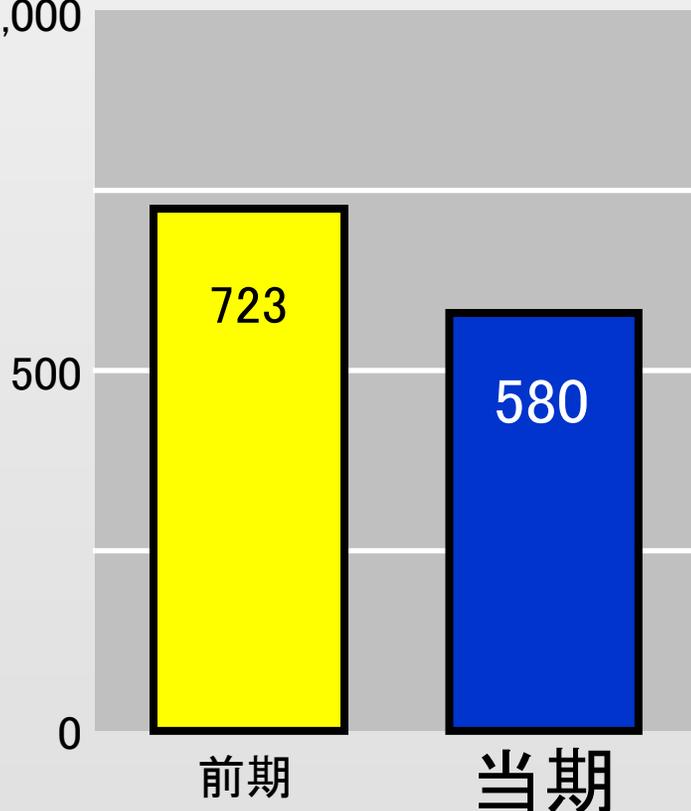


事業別概況

社会システム事業 (SSB)

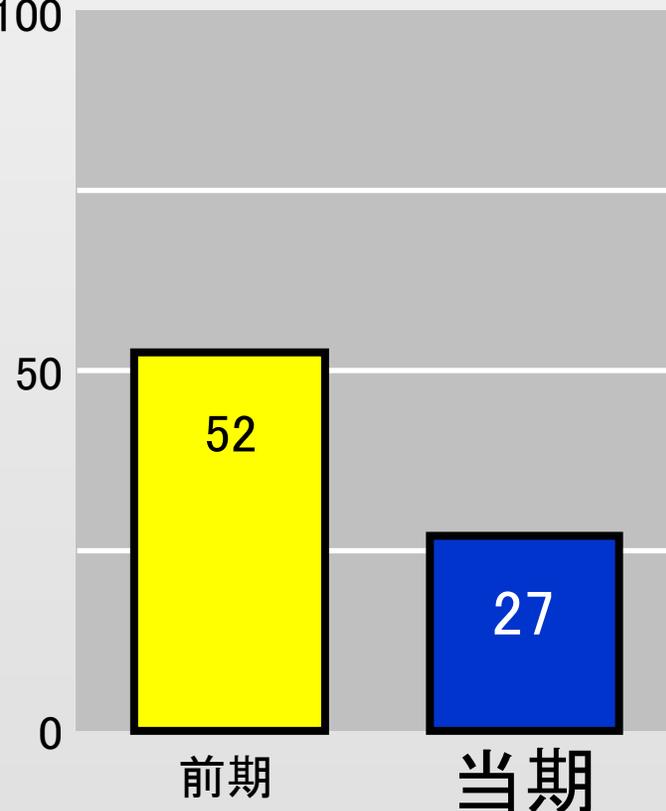
売上高

(億円)
1,000



営業利益

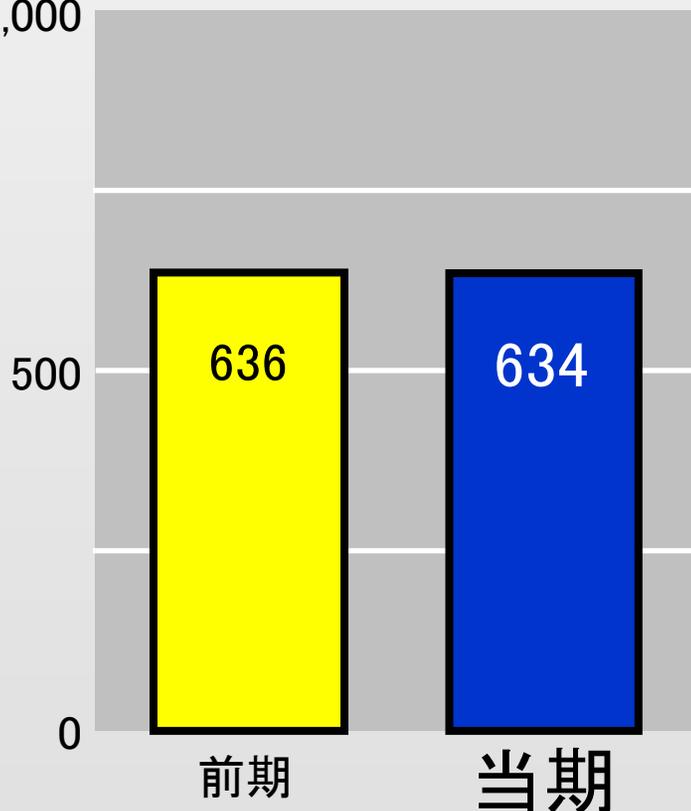
(億円)
100



健康・医療機器事業 (HCB)

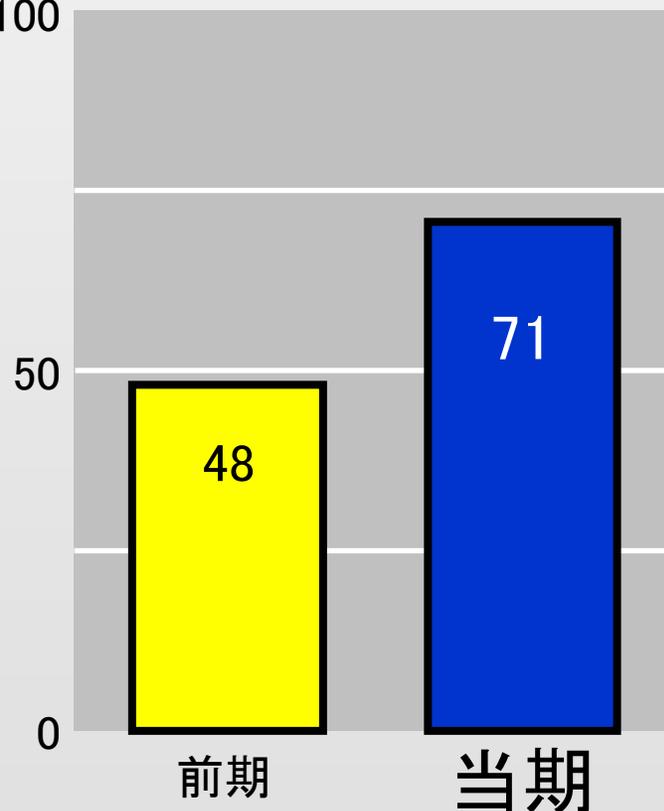
売上高

(億円)
1,000



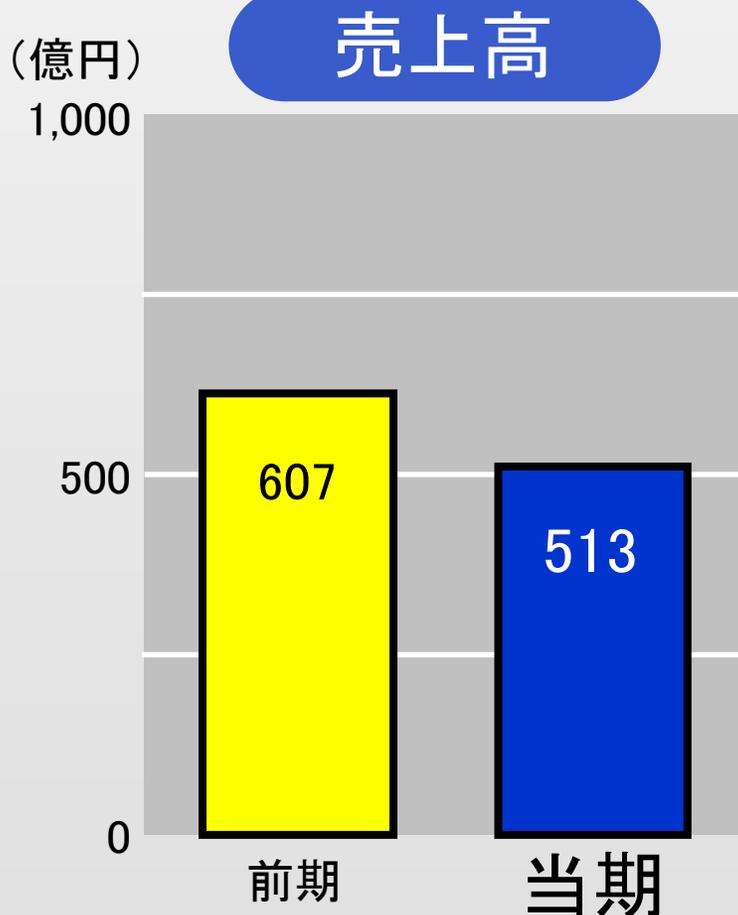
営業利益

(億円)
100

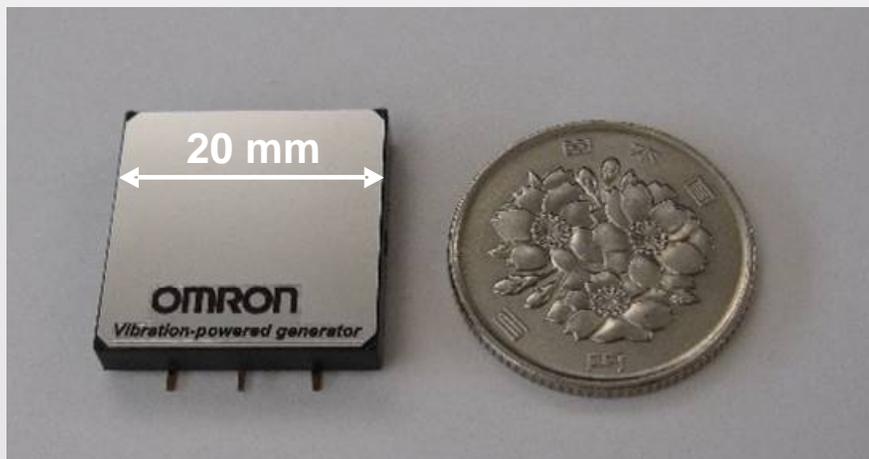


事業別概況

その他（新規育成事業および消去調整他）



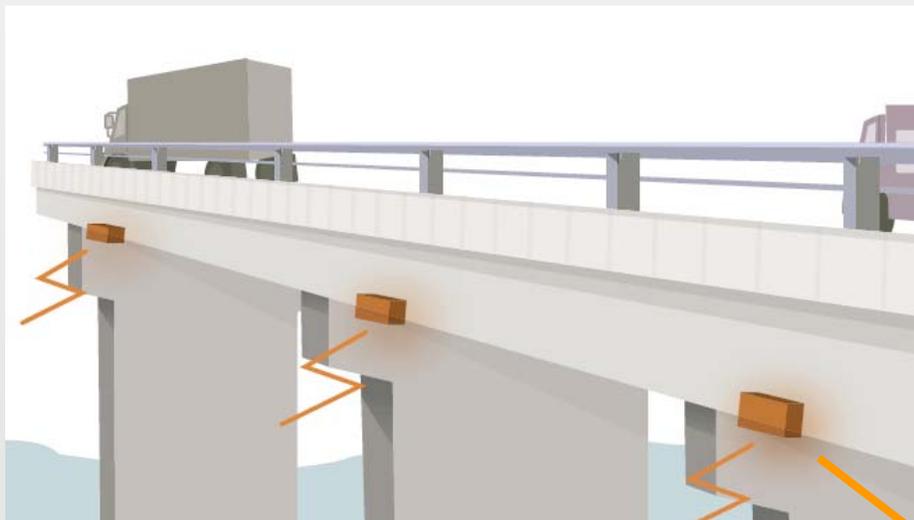
① 環境振動発電デバイスの開発に成功



■ 将来のセンサーネットワークの普及に不可欠なセンサーの電源として期待

■ 設置した場所の温度や振動データなどを電池を必要とせず、無線ネットワーク上に送出

1 環境振動発電デバイスの開発に成功

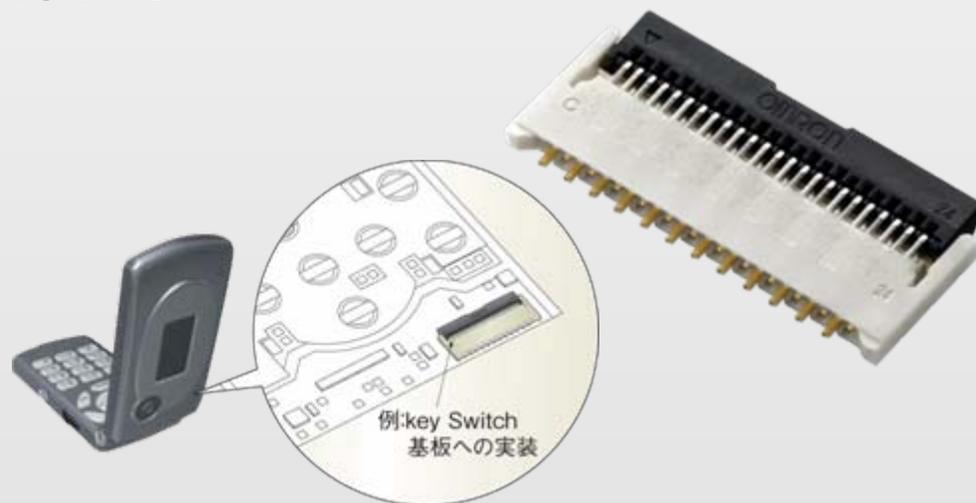


■ 想定される応用：
微弱な振動を有する橋梁や
建物の経年変化の監視など



② 高速成形技術の確立

従来5秒間かかっていた制御部品の成形を『1秒』で加工できる技術



■ 部品を製造する成形工程で必要な原材料と電力などのエネルギーのロスを削減

■ 制御部品の製造に活用できる生産技術

① 血圧計 累計出荷台数1億台 達成

- 誰にでも簡単に正確に使える機器の開発
- 高血圧は世界の人々に共通の健康課題

業界で50%以上
トップシェア



1973



1974



1978



1985



1991



2002

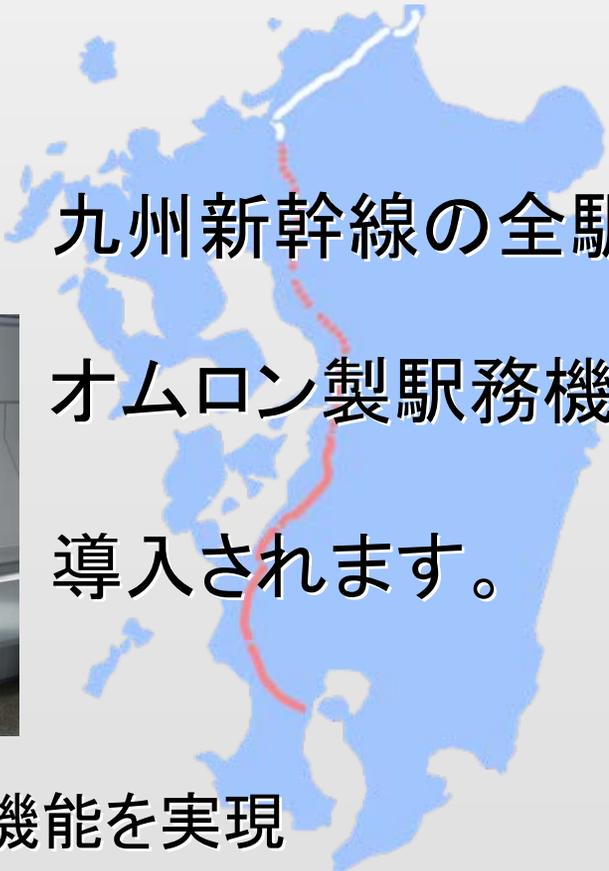


2005



2009

② 九州新幹線、全駅、駅務機器受注獲得



九州新幹線の全駅に
オムロン製駅務機器が
導入されます。

■ 業界に先立ち切符の5枚一括処理機能を実現

③ CO₂見える化システム発売

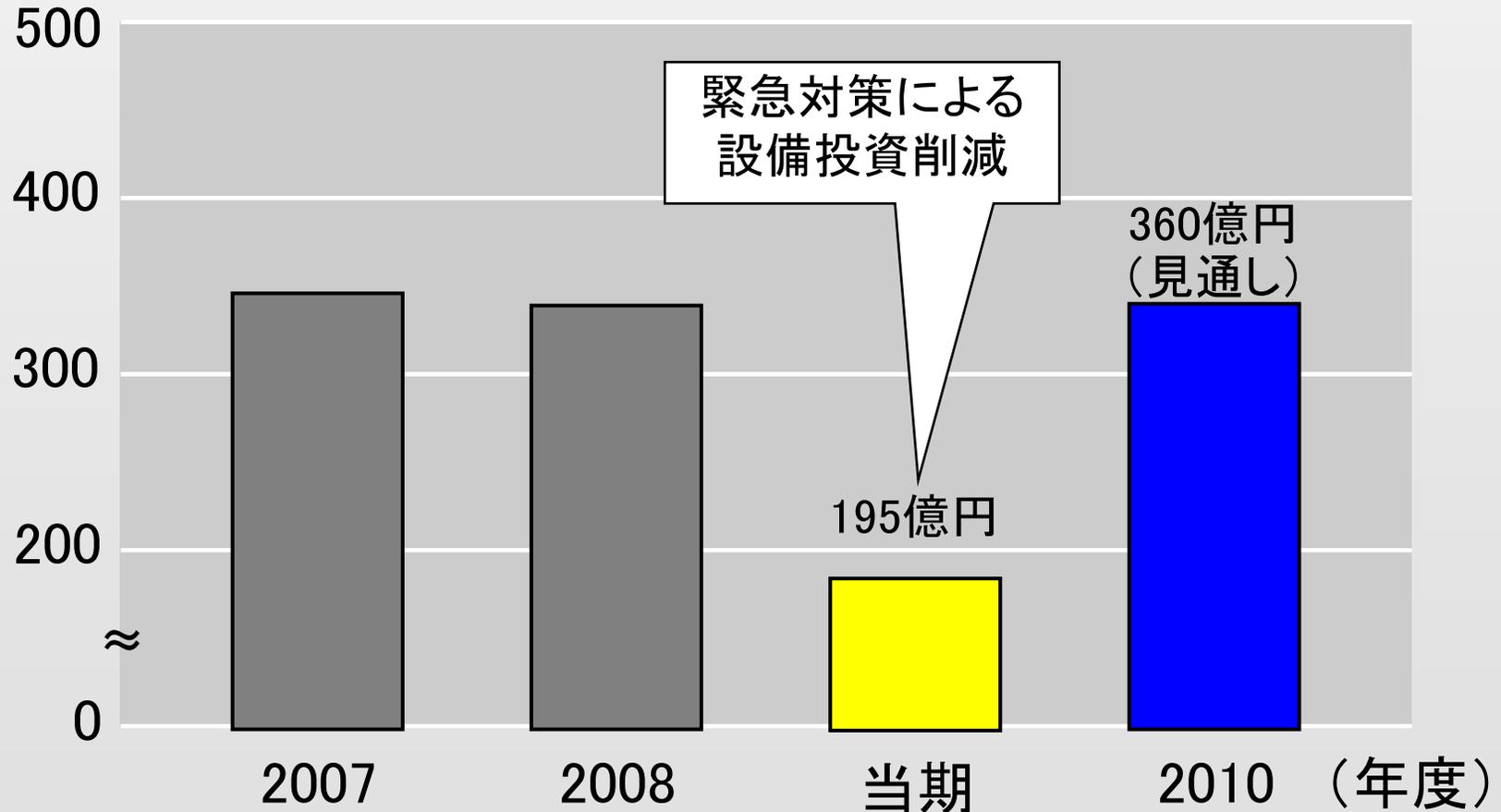


センサーで収集した
電気やガスなどの
エネルギー消費情報から、
使用時間などを基に、
削減が可能な余地を
自動的に抽出するシステム

設備投資の状況

緊急対策により設備投資を削減
2010年度は成長に向けて戦略投資を実行

(億円)

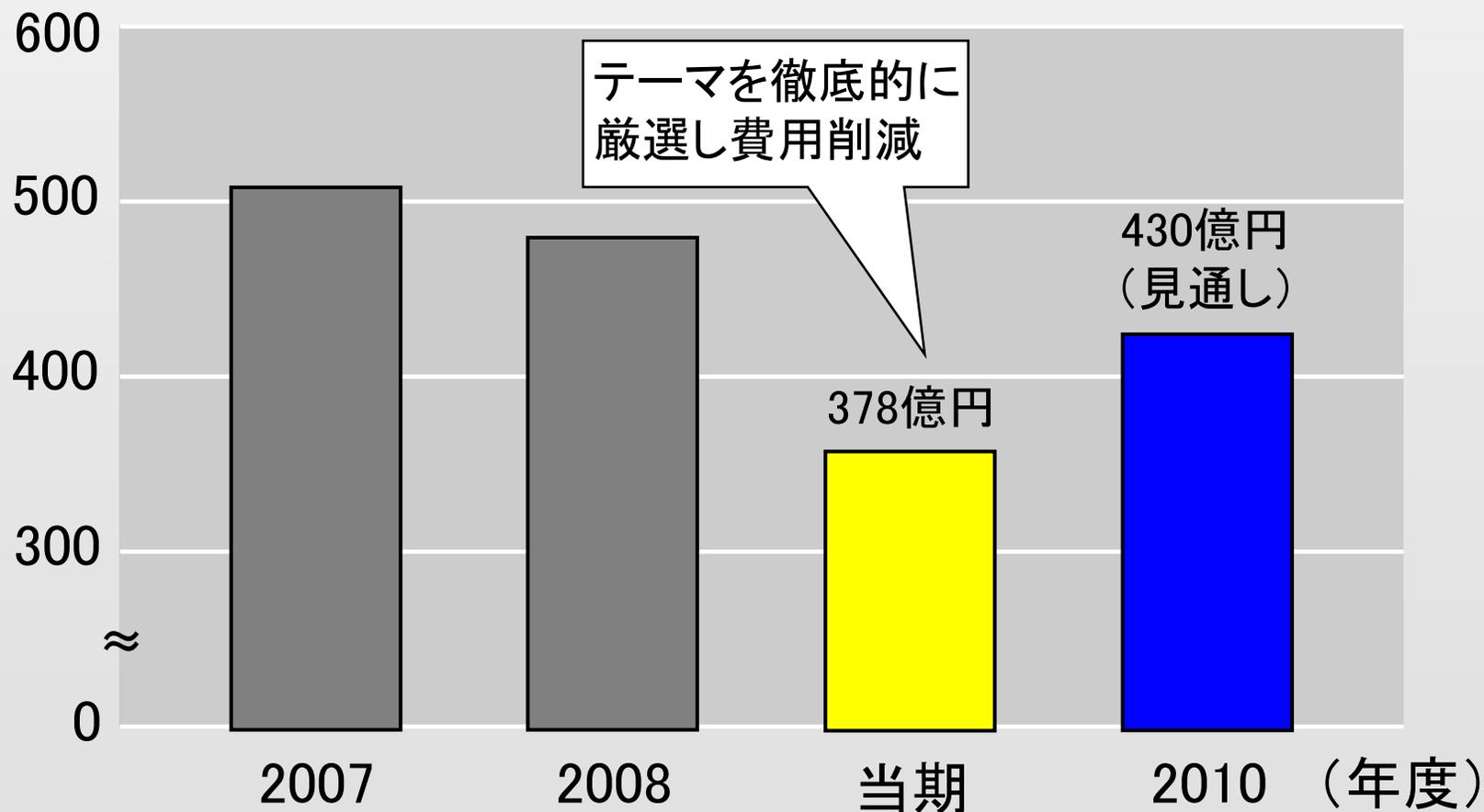


研究開発費の推移

緊急対策により研究開発費は抑制

2010年度は成長に向けて事業強化のための研究開発を強化

(億円)



報告事項

監查報告

事業報告

連結計算書類
計算書類報告

- 連結貸借対照表
- 連結損益計算書
- 連結株主持分計算書
- 連結注記表

「第73期定時株主総会 招集ご通知添付書類」
21～27ページをご覧ください。

- 貸借対照表
- 損益計算書
- 株主資本等変動計算書
- 個別注記表

「第73期定時株主総会 招集ご通知添付書類」
28～37ページをご覧ください。

対処すべき課題

次期事業計画

中長期的に目標とする収益構造

グローバル競争に勝ち残るための強固な収益構造を作る

構造改革

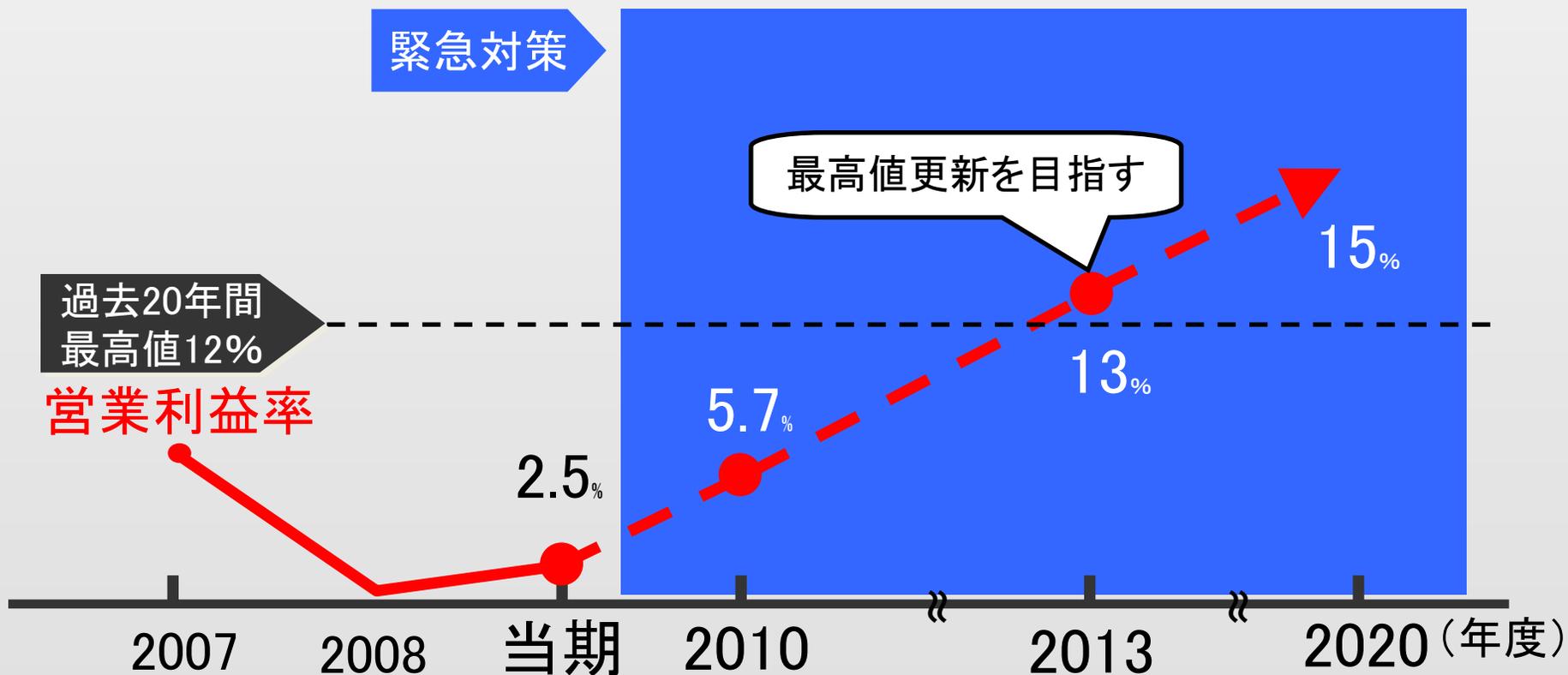
次期長期計画(10年間)

緊急対策

最高値更新を目指す

過去20年間
最高値12%

営業利益率



強固な収益構造の実現

事業領域戦略 (事業拡大)

- 先進国向け既存事業の強化
- 新興国への注力
- 環境事業への注力

運営戦略 (利益成長)

- 材料・部品の
共通化・標準化・
プラットフォーム化
- ものづくりプロセス強化
- 生産拠点の最適化

強固な収益構造の実現

事業領域戦略 (事業拡大)

- 先進国向け既存事業の強化
- 新興国への注力
- 環境事業への注力

運営戦略 (利益成長)

- 材料・部品の
共通化・標準化・
プラットフォーム化
- ものづくりプロセス強化
- 生産拠点の最適化

対応すべき課題

次期事業計画

次期業績見通し

(億円)

	当 期	次 期	当期比
売 上 高	5,247	5,800	110.5%
営 業 利 益	131	330	251.9%
税 引 前 当期純利益	102	330	323.5%
当期純利益	35	200	571.4%

次期各事業別の売上高見通し

(億円)

事業別	当 期	次 期	当期比
工場自動化用制御 機器事業 (IAB)	2,062	2,460	119.3%
家電・通信用電子 部品事業 (EMC)	707	760	107.5%
自動車用電子 部品事業 (AEC)	752	780	103.8%
社会システム事業 (SSB)	580	640	110.4%
健康・医療機器 事業 (HCB)	634	645	101.8%
その他(消去調整含)	513	515	100.4%
合 計	5,247	5,800	110.5%

2010年度方針

リバイバルステージの完遂の年として

- リバウンドしない『強固な収益構造作り』と『再成長』へのギアチェンジ
- 『選択と集中』と『共通化、標準化、プラットフォーム化』の徹底

環境変化に強い経営体質の強化

今後とも、株主の皆様のご支援とご協力をお願いいたします。